

令和6年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

第4学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の学習では、量が多く、定着するまで指導することが難しかった。 ○物語文において、想像力を働かせて考えることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○再テストの実施を行う。自主学习や普段の生活で既習漢字を使うように声をかける。 ○叙述を基にして、根拠を示しながら、考えを説明する力を身に付けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字テストをファイリングし、振り返ることができるようにした。 ○教科書の読み取り方の工夫をしたり、考えを児童同士で共有することで、考えを取り入れたり深めたりできるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習などは積極的に行う。 ○資料の読み取りをする力の個人差が大きい。 ○実生活との関連を見つけることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○声かけを積極的に行う。 ○教科書など読み取りやすい資料を中心に調べるように指導を行う。 ○実生活を振り返る時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の興味関心をもてるような課題を提示する。 ○タブレットを中心に活用するだけでなく、紙媒体の資料の読み取りを指導する。 ○学習問題を実生活と関連付けられる様に指導する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○答えを求めることはできるが、道筋立てて説明することが苦手な児童が多い。 ○分度器やコンパスの使い方が難しい児童がいた。 ○途中式や筆算の0の処理を行わないために計算ミスする児童が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童同士で考えを交流したりする時間を十分にとる。 ○作図の動画を見ることで、手順の理解を深める。 ○速さも大切であるが、数字の処理は丁寧に行うことを意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別で行うことで、それぞれのクラスで考えを交流する時間を意識できるようになってきた。単元を通して交流できるように授業を組み立てる。 ○手順の理解を図ることで、普段から作図に親しむことができるようにした。 ○0の処理の必要性などを考えさせることで、数の理解を深められるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○予想や結果などの根拠に基づいた考察が十分でない。 ○実生活とのつながりを意識して考えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験や観察の結果を基に予想と比較しながら論理的に結論を導くことができる。 ○授業の中で児童が日常生活と理科との関わりを実感できるような工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○予想が合っていたか、違っていたのかを書かせる。また、感覚的な考えではなく、実験データに基づいた結論を出すように指導する。 ○児童が興味・関心をもつことができるように日常的な疑問や現象を題材にするなどの事象提示を工夫する。また、実生活とのつながりを意識させるために毎時間実生活を振り返る時間を設ける。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を見付けることはできるが、多様な解決方法を考えることが難しい。 ○苦手な学習は取り組まない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元計画や時数を伝え、見通しをもって学習ができるようにする。 ○児童の実態に合わせた場を設定する。 ○安心して学習に取り組めるように声をかける。 ○学習の多様な関わり方を単元ごとに学年で合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○練習をするだけが解決する方法でないことを実感させるように声かけをする。限られた時間内で目指す自分の姿をイメージさせる。 ○多様な関わり方を、授業の最後に価値付けることで体育の学習の仕方を理解させていく。

音楽	<p>○範唱を聴いて歌うことができるが、発声や周りの声を聴きながら合わせて歌うことができる能力には、個人差がある。</p> <p>リコーダーは指使いや押さえ方で、課題がある児童がいる</p> <p>○鑑賞においては、感じ取ったことを書くときに語彙の量や、意味の取違いがみられる時がある。</p>	<p>○自分たちの演奏を客観的に聴く機会を設け、曲想に合った歌い方を考えるように促す。</p> <p>穴の押さえ方、指使いを復習する時間を作る。</p> <p>教え合いで技能の定着を図る。</p> <p>○音楽の表現に合った語彙を表に作るなどして、感じ取ったことを言語化できるように働きかける。</p>	<p>○グループごとに発表し、感想を言い合う場を作り、自分事として考えられるようにする。</p> <p>見本の動画を作り、正しい姿勢や指使いをいつでも確認できる環境を作る。</p> <p>○意味の取違いなどはどのような言葉使いのほうが伝わりやすいか都度、伝えるようにする。</p> <p>教師自らが様々な語彙を用いて、例を示す。</p>
図工	<p>○意欲的に取り組む児童が多いが、完成までの見通しを持って取り組むのが苦手な児童もいる。</p> <p>○片付けることが苦手な児童がいる。</p>	<p>○プリント等で自分の発想を文字にして考え、完成までの見通しを持たせる。また、授業の途中で友達の作品を見合う時間を設け、構想を練るきっかけの時間を設ける。</p> <p>○片付けの時間を十分に確保するとともに、片付ける意味も理解させることで、片付ける意欲を高める。</p>	<p>○授業の導入、途中、振り返りの時間等で、見通しを持って取り組む大切さを強調して指導する。また、友達の作品を見合う時間を設け、友達の活動の進み具合も意識させるようにさせる。</p> <p>○図工室を使っているのは自分だけではない点や次に使う人に対する思いやりについても意識をもたせることで、片付けへの意識をもたせる。</p>